

第 12 章	社会(公民)	名前:	日 付	No.03
	価格・金融			

[問題 1]

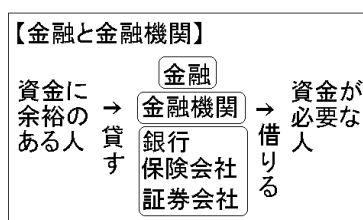
下の各問いに答えなさい。

- (1) 銀行のように、お金のなかだちをする会社のことを何といいますか。漢字 4 字で答えなさい。
- (2) 銀行以外のお金のなかだちをする機関のうち、次の①と②は何といいますか。
- ① おもに株式などの売り買いの手助けをする会社。
- ② 加入者から保険料を集め、集めたお金を運用する会社。

[解答欄]

(1) 金融機関	(2)①証券会社	②保険会社
----------	----------	-------

[解説]



サラリーマンが家を建てる時、お金を借りるのが普通である。企業が設備投資をするときも資金を借りたりする。お金を借りるには、もちろんお金を貸す人がいなくてはならない。現に、世の中にはお金が不足している人もいれば、反対に余っている人もいる。お金に余裕のある人が、お金を寝かせておくよりも他人に貸したほうが有利だと考えれば、その人は余ったお金を貸そうとするだろう。こうしてお金の貸し借りが成立することになる。

資金が不足している人と資金に余裕のある人との間で行われる資金の貸し借りは、金融とよばれる。

貸し借りは、貸し手と借り手が直接に行う場合もあるが、ふつうは、銀行などの金融機関を仲立ちとして行われる。金融機関としては、銀行のほかに保険会社や証券会社などがある。

保険会社(生命保険・損害保険)は加入者から保険料を集め、集めたお金を運用している。

証券会社は株式などの売り買いの手助けをして手数料収入を得ている。

[問題 2]

文中の①～④に適語を入れよ。

資金が不足している人と余裕のある人との間で行われる資金の貸し借りを(①)という。その仲立ちをするのが(②)で、代表的なものに(③)や保険会社がある。国民から預金や保険料を集め、これを企業や家計に貸し出す。借り手は一定期間後に、元金(借りた分のお金)だけでなく(④)も支払う。

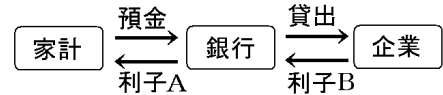
[解答欄]

①金融	②金融機関	③銀行	④利子
-----	-------	-----	-----

[問題 3]

右の図を見て、各問いに答えなさい。

- (1) 右の図によれば、家計から銀行への預金が行われ、銀行から企業へ資金が貸し出されています。このとき、利子 A と利子 B では一般にどちらの利率が高いですか。
- (2) 上の図から考えて、「家計から銀行に預金が行われる」ということと同じ意味のことを、「貸す」か「借りる」のどちらかの語句を使って、「家計は…」の形で表しなさい。
- (3) 資金が不足している人と資金に余裕がある人との間で行われる資金の貸し借りを何といいますか。



[解答欄]

(1) 利子 B	(2) 家計は銀行にお金を貸す。	(3) 金融
----------	------------------	--------

[解説]

【2つの利子の大小】
 個人・企業 → 銀行 → 個人・企業
 預金の利子 < 貸付の利子
 利子の差額が銀行の収入

銀行の貸し出し利子は預金の利子より高く、銀行はその差額で利益を得ている。

現在は超低金利の時代であり、銀行へ預金したときの金利は非常に低い。普通預金の場合の金利は 0.04%～0.08%で、100 万円を 1 年間預けたときの利子はわずか 400～800 円である。定期預金の金利は、例えば 3 年定期で 0.1%～1.0%程度である。これに対し、例えば住宅を新築するとき資金を銀行などから借りるときの金利は 1～2%(変動金利の場合)である。

[問題 4]

次の文の①、②に適語を入れよ。

銀行は、家計や企業から資金を預かり、資金を必要とする家計や企業へ貸し出す。このときのもとの資金を(①)といい、期限がくると、預金については、銀行が(②)をつけて戻し、貸し出しについては、家計や企業が、(②)をつけて銀行へ返済する。

[解答欄]

①元金	②利子
-----	-----

[問題 5]

次の①～③は貨幣の役割について述べたものである。それぞれの文に対応するはたらきを下の[]から選びなさい。

- ① 商品と商品の交換を仲介する。
 ② 銀行に預ける。
 ③ 商品の価値をはかるものさしのはたらき。

[価値の保存 交換の手段 価値の尺度]

[解答欄]

①交換の手段	②価値の保存	③価値の尺度
--------	--------	--------

[解説]

【貨幣の3つの役割】

- ・価値の尺度
- ・交換の手段
- ・価値の保存

貨幣には、**価値の尺度**、**交換の手段**、**価値の保存**という 3 つの役割がある。

貨幣のはたしている重要な役割を理解するためには、貨幣がなく物々交換だけで生活に必要なものを手に入れる場合を想像すればよい。漁師の A さんがいたとする。魚だけを食べるわけにはいけないので、米や野菜を手に入れる必要がある。A さんは農業を営む B さんの所へ行って、魚と米・野菜を交換しなければならない。生活に必要なすべてのものを、物々交換で手に入れるのは大変な労力である。

また、例えば、魚と米の交換比率をどうするのか、いちいち交渉するのも手間がかかる。

貨幣があれば、この 2 つの問題はいっぺんで解決される。とれた魚を市場の仲買人に売って現金にかえておけば、その現金で必要なものを買うことができる。貨幣は「交換の手段」としての役割をはたしている。また、ものの値段は市場における需要と供給の関係で決まるので、交換比率をいちいち交渉する必要もない。

このように、貨幣は「価値の尺度」にもなる。

さらに、貨幣は「価値の保存」という重要な役割をもっている。貨幣がない場合、漁師の A さんは、将来のための貯蓄をすることは困難である。いくら大漁であったとしても、魚を長期間保存しておくことはできないからである。

[問題 6]

下の①～③の絵は、貨幣の役割をあらわしたものです。それぞれどれにあてはまるか。[]内から選びなさい。

[価値の保存 価値の尺度 交換の手段]



[解答欄]

①価値の尺度	②交換の手段	③価値の保存
--------	--------	--------

[問題 7]

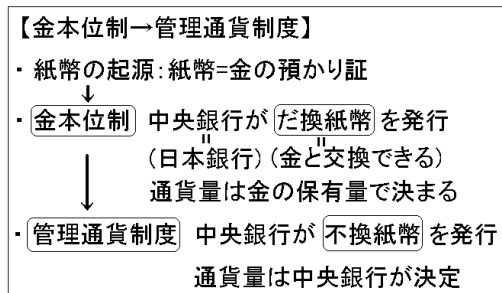
現在の日本の貨幣には、(①)が発行している銀行券(紙幣)と、政府が発行している補助貨幣(金属貨幣)がある。かつて、紙幣は金貨と交換のできる(②)紙幣であったが、現在は金貨と交換することはできない。そして、貨幣の管理は法律にもとづいて、日本の(③)である日本銀行が行っている。

- (1) 空欄①～③に適する語を書きなさい。
 (2) 現在の一万円札などは、金貨と交換できない。これを何というか。
 (3) 下線部の制度は何とよばれるか。

[解答欄]

(1)① 日本銀行	②政府	③金	(2) だ換	(3) 管理通貨
-----------	-----	----	--------	----------

[解説]



昔は交換の道具として、**貝がら**や稲穂や毛皮などが使われたことがある。その後、金・銀・銅などの金属が使用され、なかでも**金**は貨幣として認められるようになった。

紙幣はもともとは金の預かり証であった。銀行に金 1 ポンドを預けると「1 ポンド」と書かれた預かり証を受け取る。この預かり証はいつでも金にかえることができるので、誰もが代金としてこの預かり証を受け取るようになる。これが紙幣の起源である。

やがて中央銀行ができると、中央銀行は受け入れた金をもとに、金との交換を約束した紙幣を発行するようになった。このような制度を**金本位制**という。また、**金と交換できる紙幣**を**だ換紙幣**という。

日本でも 1897 年から 1931 年まで金本位制をとっていた。

しかし、金本位制の下では、発行できる紙幣の量は中央銀行が保有する金の量に制約されるため、必要に応じて通貨量を増やすことができない。また、金が不足したこともあって、金本位制を維持することは困難になった。現在では、各国とも、中央銀行の発行する紙幣は、金とは交換できない**不換紙幣**である。紙幣の発行量は中央銀行が管理するようになった。これを**管理通貨制度**という。

現在の日本の貨幣には、**日本銀行が発行する紙幣**と**政府が発行する補助貨幣(硬貨)**がある。

[問題 8]

日本銀行のように一般の銀行にお金を貸すなど特別な働きをする銀行が資本主義経済の国にはありますが、こういう銀行を何といいますか。

[解答欄]

中央銀行